

各位

2020年2月1日
株式会社 PR TIMES
執行役員 営業本部長
江口 学

PR TIMES より配信されました不適切なプレスリリースに関するお詫びとご説明ならびにお願い

謹啓

平素 PR TIMES をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。

この度、2020年1月31日（金）15:30 に第三者を誹謗中傷する内容が含まれるプレスリリース（以下「本プレスリリース」）が PR TIMES より配信され、広範囲に伝播してしまう事象が発生いたしました。本プレスリリースに関わらせてしまった全ての皆様、PR TIMES のご利用企業様、メディア関係者の皆様、ユーザーの皆様ならびに関係各所の方々へ、多大なるご迷惑をおかけいたしましたこと、深くお詫び申し上げます。

つきましては、下記の通り経緯と原因、対応につきましてご報告するとともに、PR TIMES の配信に関する方針とその意図、そしてプレスリリースを配信いただく際のお願いを、改めてお伝えさせていただきます。

謹白

記

1. 内容

弊社が運営するプレスリリース配信サービス「PR TIMES」において、2020年1月31日（金）15:30 に本プレスリリースが配信されました。

2. 経緯

2020年1月31日（金）

15:30 PR TIMES において本プレスリリースが配信される。

サイトへの掲載とメールでの送付ならびに SNS への投稿がシステムで自動処理される。

15:41 弊社スタッフが本プレスリリースの内容を確認の上、FAX での配信手続きを行う。

17:19 別の弊社スタッフが本プレスリリースを提携するメディアへ転載する作業を行う際に不適切であることを認知。本部長へ報告。

17:34 本プレスリリースをサイトより削除。

17:42 FAX 配信状況を確認の上、未配信状態であったため配信を中止。

17:55 本プレスリリースのご利用企業のご担当者様と電話で連絡。

18:00 各 SNS 投稿の削除。

3. 原因

本プレスリリースが 15:30 にサイトへ掲載後、15:41 に内容を確認したにも関わらず見過ごし、迅速な取り下げができませんでした。またその後 17:19 に至るまで問題事象を認知できず、対応が大幅に遅れたことにより、多くの人が本プレスリリースを目にする事態を招きました。

4. タイムリーな配信の実現と掲載基準につきまして

広報活動において、発表のスピード感は他に代え難い重要性を持つため、PR TIMES ではご利用企業様が自らプレスリリースをタイムリーに配信できるシステムを採用しています。

一方で、ご利用企業様とそのステークホルダーとの関係性を毀損するような事態を防ぐため、プレスリリース掲載基準を設け、弊社スタッフが全てのプレスリリースに順次目を通し、プレスリリースとして公開するに適した内容であるか審査しています。不適切な内容を発見した場合には、速やかに内容訂正や削除など対処しています。さらに内容や結果の重さ、再違反の可能性などを勘案しましてサービス利用停止などの措置をとっています。

(プレスリリース掲載基準：<https://tayori.com/faq/89b604344ebb744dbba41f73d4134560c997a743>)

プレスリリースの掲載基準は、法改正や社会的状況も考慮し、最新の世情を反映するよう努めていますが、十分に周知できておりませんでした。

5. 今後の対応策

今後、同様の問題を発生させないためにプレスリリース事後チェックの仕組みを再構築し、不適切な内容の早期発見を徹底いたします。大きく以下2点の対策を実施いたします。

- プレスリリース事後チェックにおける業務プロセスの見直しと改善
- 不適切な内容の可能性のあるプレスリリースのアラート機能改善

弊社では本件について重く受け止め、PR TIMES の信用回復のため、社内教育の再徹底と再発防止に取り組んでまいります。

また今後、悪質な掲載基準の違反には、法的措置を含む厳正な対処を講じることも並行して検討してまいります。

6. プレスリリースを配信いただく際のお願い

プレスリリースは社会に向けた公式発表となりますので、事実に基づく発表者の活動を主体として配信いただくよう、お願いしております。私たちは人の行動や頑張りの結晶を、その想いを紡いで発表するのが、プレスリリースだと考えています。そしてその行動は他の誰かを勇気づけ、多くの人を前向きにすると信じています。

企業活動と言えない内容や第三者の名誉や信用を侵害する内容は、弊社ではプレスリリースと認められません。情報発表には発表者ご自身が一切の責任を負います。その自覚のもとで配信いただくようお願いしております。

この度は、皆様へ多大なるご迷惑をお掛けし誠に申し訳ございません。改めて心よりお詫び申し上げます。

今後もどうかPR TIMES をご愛顧いただけますよう何卒よろしくようお願い申し上げます。

PR TIMES：<https://prtimes.jp/>

以上